授業紹介　＜絵・彫・デ・Ⓘ・映・他＞

題材名「マイ箸をつくろう」（１０時間）

高知県立宿毛工業高等学校　１学年

弘田　由

学校の特色・工業高校ということで全体の９割ほどが男子生徒で、芸術教科は全員が美術を選択。１２人から３３人まで、１クラスの人数は様々。

テーマ・箸を自分で作って使うことで、毎日何気なく使っている身近な道具を見つめなおし、生活環境に目を向けるきっかけにしよう。

まずは・・・　それぞれが普段家庭で使っている箸を持参し、その材質・大きさ・塗装などについて調べる。あるいは周りの生徒との比較をしてみる。

・・・→竹・プラスチックの箸が多い。木材を使った物は意外と少なく、長さは２０～２３センチほどだが子ども用と思われるような短い箸を持ってきた生徒も数人いた。塗装はウレタン塗装と思われる。

今回使用した材料と道具

・1.5cm×1.5cm×25cm の栓の角材・箸置き用角材（お箸用キット）

・軍手　・ロックナイフ　・作業台

・ｻﾝﾄﾞﾍﾟｰﾊﾟｰ（#180/#240）

その他、塗装用に

・アクリル絵の具・水性ウレタンニス・ニス用刷毛　　なども使用

栓はほどよい堅さで木目も比較的まっすぐなので高校生の加工用には向いている。今回基本的にはロックナイフのみでの削り加工とする。

デザイン

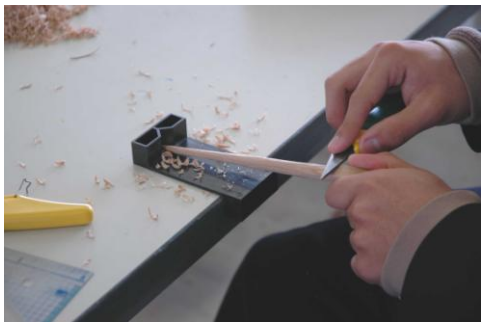
最初に調べた自分の箸と比較して、長さや太さ、断面の形状、色柄などをワークシートに記入し、完成予想図とする。ここでのポイントは塗装をする際、どこか１箇所以上で切り替えのあるデザインにすること。最後にウレタンニスで仕上げる際に手で持って半分ずつ塗って仕上げなければならないことを考慮したものだったが、(切り替え位置までニスを塗るようにすると境目が目立ちにくい）これは最終的にあまり気にする必要がなかった。（ニスの境目はほとんど目立たない）

削り出し

まずは角材の断面の中心に印をつける。この印は最後まで絶対に削ってはいけない。常に中心を見ながら削らないと箸が曲がってしまう。

角材を持つので手が痛くないように左手に軍手をはめて角から削っていく。逆目については逆から削るように指導するが、これがなかなか難しい。

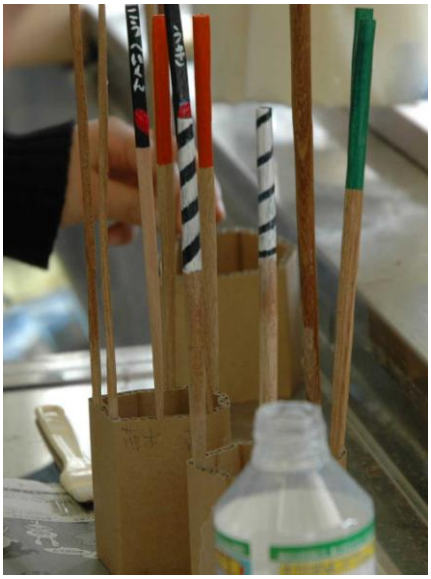
一気にたくさん削るのではなく、木目を見ながら少しずつ削るように指導する。力のある生徒や柔らかい材に当たった生徒は逆目にナイフが食い込んでしまい、削り過ぎたり折れてしまうことも・・・



凝った細工をしているものも。

両方の箸が削れたらサンドペーパーで表面を滑らかに整える。

着彩　アクリル絵の具でデザインに応じた色で着彩をする。



着色が終わり、乾いたらウレタンニスで表面を塗装する。ウレタンニスは１５分ほどで乾くので少し待てば連続して作業ができる。耐久性を考えると３回以上塗り重ねることが必要。

完成

時間が余った生徒は付属の木片を彫刻等などで彫って箸置きも作った。

まとめ

刃物の扱いについては特に人に怪我をさせることがないよう、作業環境を整えて落ち着いて作業するよう指導した。

作業の進度は生徒によってかなり差が出てしまい、特に丁寧に制作するあまり、授業時間内に完成させられない者もいた。木を削るという作業については多くの生徒が興味を持って試行錯誤しながら取り組めていた。ただ大まかに削って後はサンドペーパーで誤魔化す傾向があったので、なるべくサンドペーパーを使わずとも良いように刃物で削った木肌を大切にするように指導した。

最後の着彩に至るまで、多くの生徒が作品に執着を持って課題に取り組むことができたのではないかと思う。